

多様なレクリエーションで利用者に 自主性と積極性

京都府カフェテリアプラン

西小倉デイサービスセンター

社会福祉士

久乗一志氏

介護福祉士

竹川英晃氏



京都府では昨年11月より翌2月までの3カ月間、デイサービスで同じ日に受けられるレクリエーションの種類を増やし、利用者が主体的にレクリエーションを選べるモデル事業を行った。デイサービスでのレクリエーションは、利用者

の交流の場となり認知症や身体機能低下の予防に効果的である一方、画一的なレクリエーションに合わない利用者にとり対応するかという課題がある。京都府ではレクリエーションの選択肢を増やすこととで利用者のレクリエー

ションに対する意欲を高めたことを考えた。モデル事業者のひとつとなった宇治市福祉サービス公社西小倉デイサービスセンターに成果をたずねた。

西小倉デイサービスセンターの定員は25名で、認知症の利用者は10名。職員は早くからレクリエーションの小グループ化を検討しており、レクリエーションを複数用意し利用者の自己決定に任せるという府のモデル事業・カフェテリアプランへの応募に踏み切った。これまでの集団レクリエーションをゲーム・健康グループ、製作グループ、園芸

グループの3種にわけた。ゲーム・健康グループでは運動機能低下予防をテーマとしてボーリングのテレビゲームを行った。このゲームはボール状のコントローラーをスイングするとセンサーが感知してテレビ画面上のピンが倒れるというもので約400グラムの軽量のボールをスイングすることでレクリエーション終了後に食欲が増進したとの利用者の声も聞かれた。

製作グループではお袋やおひらき、ぬいぐるみなどを製作した。利用者の中に刺繍の得意な方がおり、その人を中心として活動を行ったため、集団レクリエーション以上に利用者同士の交流が深まった。また、製作物は図書館や保育園などに寄贈され地域との関わり合いに役立った。



ボーリング・ゲームを楽しむ
ゲーム・健康グループ

園芸グループでは葉牡丹や蘭天を使った寄せ植えを行った。当初は手作業や運動に興味がなく消極的なグループだったが、寄せ植えの評判が好評であったことなどから、春が近づくとつれ球根植えの芽が大きくなっていく様子を楽しみにするようになったという。

で、利用者一人ひとりに役割が生まれ、自主性や積極性が増したとカフェテリアの効果も語った。モデル事業後の利用者の様子を尋ねると介護福祉士の竹川英晃氏は「様々なレクリエーションを通じて利用者は自分にできることを再確認できた。モデル事業後も自分たちで詩吟の会を開いたりしており、職員としてもカフェテリアプランが利用者のやる気を引き出していると感じた。ただ、レクリエーション数を増やすと対応する職員数も増やさなければならず、その点は大きな問題」と語った。